

行きづまり症候群

アンディ美湖

(訳：鈴木敦子)

2：家族システムとしての会衆

Copyright 2001 Andy Meeko

佐藤さんの結婚生活はうまくいっていませんでした。どういう訳かこの数年の間に二人の関係は冷え、よそよそしいものになっていました。一緒に住んではいますが、お互いの存在を楽しむということはありません。勿論、生活はとても忙しかったので、二人の心が徐々に、ほんの少しずつ離れていっていることなど気付きもしませんでした。そしてついある日、一体どうして二人は結婚したのだらうと、首をかき上げてしまいました。今となっては、やり直す力はもう残っていません。愛情などもはや無く、やる気もありません。確かに、やめてしまうことの方がよほど簡単に思えます。

こんな話を耳にしたことがありますか。悲しい話ですが、確かによくあるシナリオです。北海道から沖縄まで、結婚セミナーではこのような例を繰り返し見てきました。こういうことになってしまうのには幾つもの理由があるでしょうし、状況が複雑なケースもあります。二人は、夫がこうしないから私もこうしない、妻があんな事をしたから私は他の事で仕返しをする、という風で、お互いの心は日に日に孤立していく一方です。

私は、彼らの話を聞くうちに、何かおかしい傾向があることに気が付きました。一方は天使、またもう一方は悪魔であるかのように語られる、という事です。勿論どちらの話聞くかによりますが、しかし、結婚関係においては、責任が一方のみにあるということはほとんどありません。それは、二人が作り出す「システム」の結果なのです。そして、これと全く同じ事が、教会でも起こっています。教会も、家庭と同様に「システム」に基づいて機能していて、そのシステムには健全なものも、そうでないものもあります。不健全なシステムの教会は神の御業に相応しくない、という考え方はやめるべきです。それは、行きづまり症候群にかかっているだけなのですから。

家庭や教会の健康のためには、「システム」を理解することがとても大切です。「一般システム理論」は、家族療法の領域では近年非常に大きな影響を与えていますが、それだけでなく、教会を見る見方にも影響を与えています。家族と教会をこのように重ね合わせて考えられるのは、教会が単に「神の家族」だからというだけでなく、教会が幾つもの家族から成っているからです。ですから、家庭の中で起こる事が、同じパターンをもって教会でも起こり得ます。そして、「機能不全家族」があるように、「機能不全教会」というものも存在し、両者とも、不健全な行動様式を持ち得るのです。これは「システム思考」によって、より良く理解することが出来ます。

「システム思考」とは、機械的な考え方ではありません。現実を、有機的なものと考え、全体から見、そして絶えず変化するものとして見ます。つまり、システムの一部だけに目を留めるのではなく、各部分間の関係に目を向けます。また、内容よりも過程に注目します。人々も教会も、しばしば行きづまってしまふのは、症状や問題だけにとらわれていることに原因があるよ

うです。

最近よく聞く悩み事に「不眠症」があります。 ストレスだらけの生活の中で、不眠症に悩む人は多くいます。 一般的に、人は眠れないと医者に行き、眠れるようになる薬をもらってきます。これは良いことかもしれませんが、このような治療だけでは、人を生物学的な生き物としか見ていません。 医者はこう言うでしょう。「食べて、寝て、定期的に運動し、この薬を飲みなさい。」またある人は一歩進んで、心理学的な助けを求めましょう。 カウンセラーの所に行き、自分の思考や感情がどのように不眠に影響しているかを、見出すかもしれません。 この治療では、人を精神的な生き物として見ています。 しかし人間は生物学的、また精神的な存在にとどまりません。 霊的な影響はどうでしょう。 もしかしたら、その人をだめにしてしまおうとする悪霊の働きがあるのではないのでしょうか。 このように、三つの領域それぞれの要素がありながら、一つだけを取り上げて他を無視してしまうことは全く無意味なことでしょう。 どの領域からこの問題が起こったのかを突き止めるのはむずかしいかも知れませんが、どの領域もシステムの一部を担っているわけで、互いに作用したり、強めあったりしているのです。

「システム思考」が、今までの考え方とどのように違うかは、下の表を参考にしてください。

分離思考	システム思考
問題は個人のものである	問題はシステム全体のものである
問題はある部分に限られている	問題は各部分間にある
部分が全体を説明している	全体から部分を見る
因果関係で考える	共に原因となっているものと考え

システム思考において重要な言葉は、「問題児 “identified patient” / “IP”」です。 家族が変えようとしているその人です。 この人こそが問題を抱えているのだと考えられています。 教会にも「問題児」がいます。 教会は「キリストの体」ですから、この問題児は「がん」に違いないと考えがちですが、それは実際には公平ではありません。「問題児」は取り立てて病気ではなく、システムの病んでいる部分を行動に表しているだけです。 その行動とは、家庭または教会のストレスや病状に対する反応なのです。

私はかつて特別伝道集会で話したことがありますが、そこには牧師の妻が息子を連れて来ていました。 彼は高校生でしたが登校を拒否していました。 言うまでも無く、これは牧師の家庭にとっては大きな試みでもあり、恥でもあったでしょう。 両親は息子を何とか正してやろうとしていたようです。 あの時、牧師の妻と息子が集会に来たのは、メッセージを聞いて息子が罪を自覚し、回心することを願ったことだったのかも知れません。 あの日私のメッセージは奇跡が起こるほどのものではありませんでした。 今になっても私は、あの息子さんが単なる「問題児」だったのだらうかと考えます。 彼自身が本当の問題だったのではなく、問題は家庭内にあったのかもしれないし、ストレスにさらされた不健全な家庭に対する反応に、過ぎなかつたのかも

れません。本当は何が起こっていたのでしょうか。私にはわかりませんが、家族が正直に自分たちを見直すことが出来るように祈るばかりです。私たち親は自分の子供を正してやりたいと思うものですが、現実にはシステムが正される必要があるのです。問題児を追い出すことでは解決できません。むしろ敏感さを持って、賢く、システムの中に変化をもたらすことです。

勿論、家族のシステムも教会のシステムも決して完璧とはなり得ません。私たちはみな成長の途上にあります。しかし、家族や教会が正しく機能し、その影響を周囲に及ぼすためには、ある程度の健全さが要求されます。そうでなければ私たちは徐々に互いにもっと冷たくなり、もっと孤立し、反目しあうようになって、誰も正しく機能できないでしょう。不健全なパターンに窮しているシステムにも希望があります。もうだめだと思われた夫婦が全く変えられたのを見たことがあります。その理由は、システム思考のもう一つの前提を見れば分かるでしょう。つまり、小さい変化は大きい変化をもたらすということです。システムは互いに関わり合い、影響しあっている各部分から成っているので、小さい変化も連鎖反応していくのです。

結婚セミナーの例に戻りましょう。孤立し、冷たい関係になってしまったこの夫婦は、お互いを非難し、今にも離婚して、家庭も子供もめちゃくちゃにしてしまいそうですが、それでもこの二人は、全く新しい夫婦関係に入ることが出来るのです。それは、今まで互いに対してしてきたことを理解することや、幼年期に原因があることを理解することによっては（これも大切なことですが）成し得ません。むしろ、二人が話したり、楽しい思い出を語り合ったり、将来のことを考えたりして前向きな時間を過ごすことによって成し得るのです。ファミリーライフカンファレンスでは、夫が妻に花を贈ることもあります。互いへのラブレターを書くこともありますし、「ごめんなさい」「赦しますよ」といった言葉を交わすこともあるでしょう。集会は土曜日の夕食前に終わるので、デートに行くことも出来るでしょう。たいていの場合、何か不思議なことが起こります。何かよい兆しが芽生えます。あれほど大きいと思えた問題も、そのことに触れることなくして消えてゆくことがあります。ばかげたほど単純ですって？ そうかもしれません。カンファレンスでは、衝突した場合の解決方法やコミュニケーションといった多くのことを教えますが、本当の変化は新しい知識を得ることによってではなく、システムの中の小さな変化の中に始まるのです。

神様の知恵によって、あなたもそのような、小さいけれども大きな変化を教会にもたらすことが出来るのです。問題を誰かのせいにするのは、もうせずつむでしょう。もしかしたらあなたは、行きづまりを解決する突破口として、今そこに置かれているのかもしれない。